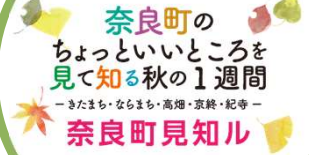


関伽井庵 (あかいあん)



① 歴史・概要

あかいあん

関伽井庵は浄土宗の寺院で、天平時代に広大な伽藍を誇った新薬師寺旧境内地の一角に建っています。関伽とは、サンスクリット語で「水」のこと。境内によい水が湧く関伽井があり、奈良時代に聖武天皇の眼病平癒を願ってその水をお供えされたという言い伝えがあります。庵のあるあたりは、関伽井町とも呼ばれていました。

本尊は阿弥陀如来像（鎌倉時代）、両脇侍は観音菩薩・勢至菩薩（江戸時代）です。脇侍像は両ひざでひざまづいている姿（^{きざ}跪坐・^{こき}胡跪）で、衆生をすぐにでも救いにくてくださる様子を表しています。

本堂には、楠木正成が信仰した鎮宅霊符神（非公開）も祀られているほか、不動明王像（室町時代）、地藏菩薩像（江戸時代）も安置されています。

本堂は江戸時代後期に発生した安政の地震で倒壊し、明治中期に再建されました。現在の建物は昭和35年（1960年）に新築したものです。

② みどころ

玄関右手の格子戸の下に関伽井が残っており、現在も水が湧いています。明治維新とともに浄土宗に改められるまでは密教的な寺院であったと言われます。その名残で、先代の尼僧までは、算盤を使った占い・算易で知られる寺院でした。今も、算易に使った中国式の七つ玉の算盤や干支が入った方位磁石が残っています。



本堂奥の庭の南側には、吉備真備ゆかりの吉備塚（奈良教育大学構内）の森が見えます。

きびのまきび

吉備真備（695年～775年）

奈良時代の公卿、学者で、陰陽道の祖ともいわれています。

遣唐使として二度唐へ渡りました。

特に最初に入唐した際は18年も滞在し、儒教、歴史、天文学、音楽、兵学など幅広く学びました。時の唐の皇帝・玄宗がその才を認め、帰国を許さなかったとも言われています。

2025年は吉備真備没後1250年にあたることから、10月4日に関伽井庵にて法要が執り行われました。